令和5年8月18日

やまゆり

夏の号

Vol.92

やまゆり　七夕

松籟荘　七夕飾り

さあくる
父の日・母の日プレゼント作り

仙水園　カラオケ大会

社会福祉法人　芸北福祉会
HPアドレス　http：//geihoku-fukushikai.com

特別養護老人ホームやまゆり やまゆり居宅介護支援事業所	デイサービスセンター仙水園 ヘルパーステーションスマイリー	障害者支援センター さあくる	グループホーム 松籟荘
Tel　0826-38-0177 Fax　0826-36-1100	Tel　0826-35-0975 Fax　0826-36-3013	Tel　0826-35-0733 Fax　0826-35-1616	Tel（Fax兼） 0826-35-0740

理事長就任挨拶

社会福祉法人 芸北福祉会
理事長 齋 藤 正 守

第二回理事会において、はからずも理事長の指名を賜りました。浅学非才を顧みずこの大役をお受けすることにいたしました。時に法人設立五十年の節目にあたります。これからの五十年につながるよう、ご利用者や地域の皆様の負託にこたえてまいる所存です。

法人は、特別養護老人ホーム二施設の経営を主体に運営してまいりましたが、在宅サービスを強化するため、平成三十年度から他の二法人との事業連携に踏み切り、介護保険及び自立支援事業十四部門、公益事業一部門、収益事業一部門と多岐にわたり事業展開しており、派遣職員等を含めると百八十名余を擁する法人に成長してきました。

これからの法人経営においては、これまで培ってきた五十年の慣例を打破し、利用者ニーズや従事する職員の多様性を経営に反映することに重点を置きたいと考えています。また、在宅サービスを安定的に持続するためには、本体の特養部門の経営強化が必須となりますが、国は福祉財源の確保が見通せないことから、介護サービス財源を抑制し、障害福祉サービスの報酬単価を介護報酬並みに近づける方針といわれています。法人経営においても障害福祉サービスの強化がポイントになると考えています。

法人の各事業を信じてご利用いただいております利用者の皆さんへ、より以上の信頼をいただけるよう努めてまいります。

また、平成三十年の事業譲渡以降、芸北福祉会を信じて移籍いただいた多くの職員のみなさんへ安心をお届けすることが理事長としての優先的義務と痛感しております。

介護業界を巡る環境は、ひところの勢いは失せましたが、現在サービスをご利用くださっている利用者やこれから利用予定の地域の皆様へ、常に生活の拠りどころとしての法人であり続けたいと考えています。

とりわけ芸北地域においては、平成六年に竣工した芸北ホリスティックセンターへ法人事業を移転集約し、設立当初の理念であった高齢者や障碍者の生きがいの拠点として機能できるよう、北広島町及び雄鹿原診療所のご指導をいただけるよう努めてまいります。

終わりに、法人の基礎を築かれた歴代七名の理事長に敬意を払うと同時に、時代の要請にこたえるべく法人経営に努めてまいりますので、ご指導賜りますようお願いします。

令和四年度 各事業の成果と課題

特別養護老人ホームやまゆり

コロナ禍での利用率の低下、クラスターの発生等非常に困難な一年となりました。その様な状況下においても、やまゆりで最期を看取るという限られた時間の流れの中であっても、ご家族との繋がりに最大限配慮しながら、職員全員でサポートできる体制は、やまゆりの誇りとなっています。介護人材確保においても、「働きがいのある職場づくり」を目標にした取り組みに努め、新たな仲間たちが増える結果となりました。また今後の目標であるＩＣＴ化への取り組み、老朽化における環境整備に向けて、現状把握やデモンストレーション等を実施しながら準備を進めることができました。

（1）従来型特養

従来型特養の特性を活かしながら広域からのご利用者の受け入れを行いました。看取りケアについても継続して、ご家族の満足に繋がる支援が提供できました。感染禍での業務継続や質の向上に向けた教育に重点を置き、特に「感染対策」「認知症ケア」「適切な介助」等について、職員皆で学習を進め効果を上げました。

（2）短期入所生活介護

短期入所ではコロナ禍の影響を大きく受け利用実績が一時的に低下しましたが、入所部門とのゾーニング等でお互いの感染リスクの回避に努め、ショートステイならではのコミュニティが確立できるよう取り組みました。また、緊急時の利用希望者に対しても柔軟な受け入れを行うことができました。

（3）医務

看取りケア、コロナ禍での感染対策において要となり、施設全体を支えていけるよう取り組んでまいりました。またリハビリや生きがい活動等における取組において、意欲の向上や重度化防止に大きな効果を上げました。

（4）調理

満足度の高い給食を提供できるよう常に職員間で検討を重ね、調理方法の統一を図るなど質の向上に努めてまいりました。また誕生日には個別のリクエストメニューを提供するなど個別ケアにも取り組みました。給食の提供体制を法人全体で支える観点から、仙水園やげいほく弁当への給食提供をやまゆりから支援してまいりました。今後は寿光園給食部門とも連携を図ると共に、地元野菜を活用するなどし、コスト意識を持ち、美味しい給食の提供を追求してまいります。

（5）居宅介護支援事業所

ご利用者様がその人らしい人生を送れるよう支援することを最重要目標とし、感染対策への細心の注意を図りながらも、在宅復帰や在宅看取りの支援を行うことができました。しかし課題として担当件数の減少がみられることから、担当地域の拡大を行い広域でのニーズに応えていく必要があると考えます。コロナ禍であっても、事業継続、自己研鑽に励めるようウェブの活用によるＩＣＴ化を確立し、法人内の在宅サービスの中心に立ち、地域づくりや多職種連携を進めていくよう努めてまいります。

芸北地域在宅福祉サービス事業拠点

令和四年度も新型コロナウイルスが猛威を振るい、各事業所でもご利用者や職員に陽性者が出ましたが、感染拡大もなく通常どおりの営業を行うことができました。芸北地域は人口減にあり、ご利用者や職員の確保がここ数年の課題です。利用率も下がり、スマイリー以外の事業所はマイナス収支となりました。いずれ先細りしていくことは明白です。改革にチャレンジしていくことが芸北福祉会の発展になり、しいては地域住民の福祉向上につながるという認識を全職員で共有して令和五年度に臨みます。

（1）デイサービスセンター仙水園

入院、短期入所等で利用変動がある際、それに合わせた出勤人数調整を行い、人件費や必要物品等のコスト削減に努めました。職員会議や職員研修では、ウェブを活用した外部研修や、感染症発生を想定した関係事業所合同のシミュレーションに参加し、専門知識の習得・緊急時対応法を全職員で共有しました。クラブ活動やクッキング等、新たなプログラムの提供を行い、ご利用者の満足度を高める取り組みを行いました。活動のひとつが新聞に取り上げられました。

（2）ヘルパーステーションスマイリー

在宅生活を望まれる方のニーズが増え、前年度に比べ訪問件数が大きく増加しました。またコロナ禍で通所系事業所や短期入所施設の受け入れ中止も重なり、一時的に訪問介護サービスをご利用される方が増加しました。ヘルパーは在宅生活を送るための最終的な支援サービスとして、ニーズは今後も増える見通しです。しかしながら担い手であるヘルパーの確保は困難を極めており人材確保が喫緊の課題です。

（3）グループホーム松籟荘

ご利用者、職員が新型コロナウイルスに感染しないよう、感染予防に取り組みました。

定期的にユニット内の課題について話し合い、ご利用者への統一したケア、個別支援計画等を情報共有し、風通しの良い職場環境に努めました。介護従事者の確保が見通せず定員の変更（二ユニット十二人定員→一ユニット六人定員）を行い、規模縮小を行いました。

（4）障害者支援センターさあくる

ご利用されていた方が、一般就労やＡ型事業所へ移籍されたことにより収益減となりました。そうした中で、法人内の別事業所の清掃活動を新規で請け負ったこと、またコロナ禍にあってもイベント等でパンの受注が増え、工賃支給額が前年度より増額となりご利用者の生きがいにつながりました。養護学校から実習体験を受け入れ、卒業後の進路の選択肢としてさあくるを選んでいただくこととなりました。令和四年度の相談支援事業所の立ち上げは持ち越しとなりましたが、次年度で開設を目指します。

（5）公益事業（配食サービス：げいほく弁当）

高齢者や介護認定の有無を問わずサービス提供ができる体制を整え、要介護認定以外の方の利用も少しずつではありますが増加しており、地域住民に認知されてきているといえます。ご利用者の多様なニーズに応えるためにも、次年度に導入する新たな調理システムにより多彩なメニューの提案を行ってまいります。

（6）受託事業（仙水園生活支援ハウス）

ご利用者の中で、新型コロナウイルスの濃厚接触者になられ、外部サービスを受けられない状況が発生しましたが、感染防止に努めながら生活支援ハウスでの生活を継続しました。

芸北福祉会役員・評議員名簿

（理事長）齋藤正守
（法人本部理事）佐々木孝良
（理事施設長）藤川真、中東奈津紀
（理　事）久茂谷美保之、藤堂修壮、清見宣正
（監　事）藤本忠則、佐々木道則
（評議員）斉藤マユミ、岡田敏子、宮本裕之、武山智文、河野通有、岡崎一子、栗栖正吉、久志浄春
任　期：理事、監事　二年間
　　評議員　四年間

令和四年度特別表彰

特養やまゆり職員 宮崎千鶴代さんが表彰されました。宮崎さんは副施設長兼生活相談員として多年にわたり法人にご尽力いただきました。

令和４年度　芸北福祉会決算のご報告

（自）令和４年４月１日（至）令和５年３月31日

資金収支計算書

（単位：千円）

勘定科目	予算A	決算B	差異A－B
介護保険事業収入	806,640	805,249	1,391
就労支援事業収入	2,600	2,603	△3
障害福祉サービス等事業収入	26,580	25,813	767
公益事業収入	6,320	6,163	157
不動産賃貸収入	600	600	0
経常経費寄附金収入	1,090	2,043	△953
受取利息配当金収入	400	591	△191
その他の収入	1,780	7,638	△5,858
事業活動収入計	846,010	850,700	△4,690
人件費支出	582,560	571,871	10,689
事業費支出	131,460	130,833	627
事務費支出	64,190	57,159	7,031
就労支援事業支出	2,620	2,603	17
利用者負担軽減額	1,130	0	1,130
支払利息支出	2,320	2,310	10
その他の支出	580	570	10
事業活動支出計	784,860	765,346	19,514
事業活動資金収支差額	61,150	85,353	△24,203
施設整備等収入計	9,280	9,608	△328
施設整備等支出計	72,650	72,536	114
施設整備等資金収支差額	△63,370	△62,928	△442
その他の活動収入計	2,880	2,348	532
その他の活動支出計	2,290	1,712	578
その他の活動資金収支差額	590	636	△46
予備費支出	0	0	0
当期資金収支差額合計	△1,630	23,063	△24,693
前期末支払資金残高	268,220	268,220	0
当期末支払資金残高	266,590	291,283	△24,693

貸借対照表

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	338,860	流動負債	96,390
預金	213,852	事業未払金	44,222
事業未収金	123,007	設備資金借入金（1年以内返済）	29,304
その他流動資産	2,001	賞与引当金	19,509
固定資産	1,724,417	その他流動負債	3,355
基本財産	1,052,690	固定負債	279,922
土地	50,328	設備資金借入金	256,410
建物	1,002,361	退職給付引当金	23,511
その他の固定資産	671,727	負債の部合計	376,312
減価償却特別積立資産	486,164	**純資産の部**	
退職給付引当資産	23,512	基本金	6,477
その他固定資産	857	国庫補助金等特別積立金	343,324
		減価償却特別積立金	486,164
		次期繰越活動増減差額	851,000
		純資産合計	1,686,965
資産合計	2,063,277	負債及び純資産合計	2,063,277

ご寄付の御礼

○金一封

北広島町　栃藪　幸一　様

北広島町　河野　芳彦　様

北広島町　原　芳策　様

安芸太田町　山県太田組　ダーナ募金会　様

○物品

北広島町　安養寺　様（教本一式、他）

（令和五年一月～六月分）

この他にもご寄付や物品を頂戴しておりますので、合わせて御礼申し上げます。